

# PICK UP MOVIE



© 2019 BIG BEACH, LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

# フェアウェル

## アメリカと中国のはざま

[2019年/アメリカ/100分] 監督・脚本：ルル・ワン  
出演：オークワフィナ、ツイ・マー、ダイアナ・リン、チャオ・シュウチェン、水原碧衣

愛する祖母に最後に伝えるのは〈真実〉？  
それとも〈優しい嘘〉？  
余命3ヶ月の祖母に真実を隠し、  
〈嘘〉の結婚式の名目で集まる親戚一同。  
「さよなら」の代わりに家族が伝えたことは？  
『ムーンライト』『レディ・バード』のA24が贈る感動実話



[解説] 2019年に注目すべき監督10人  
に選ばれた女性監督ルル・ワンが、自  
身の家族に起きた実話を映画化した本  
作は、家族の在り方とそれぞれの生き  
方をリアルに、そして繊細に描いた感  
動作。第77回ゴールデングローブ賞で  
は、主演オークワフィナがアジア系女  
優初の主演女優賞を受賞する快挙を成  
し遂げた。

[あらすじ] NYに暮らすビリーと家族は、  
ガンで余命3ヶ月と宣告された祖母ナ  
イナイに最後に会うために中国へ帰郷す  
る。家族は、病のことを本人に悟られな  
いように、集まる口実として、いとこの  
結婚式をでっちあげる。ちゃんと真実を  
伝えるべきだと訴えるビリーと、悲しま  
せたくない反対する家族。葛藤の中で  
過ごす数日間、うまくいかない人生に悩  
んでいたビリーは、明るく愛情深いナ  
イナイから生きる力を受け取っていく。つ  
いに訪れた帰国の朝、彼女たちが辿り着  
いた答えとは？

中国には昔から「落地生根」という言葉がある。行った先の土地で根をはる、という意味だ。中国では海外で暮らす家族を持つ例は多いが、この映画のなかでも、長男一家は日本に、次男一家はアメリカに移住している。彼らは異文化とどう折り合ったのだろうか。

主人公ビリーは、6歳で両親に連れられてアメリカに移住した。未知の土地での両親の不安を感じながら、心のよりどころは中国のおばあちゃんとの思い出だった。そんなある日、おばあちゃんが、ガンで余命3ヶ月と宣告された。親族一同はてんやわんや、おばあちゃんには事実を告げず、口実を設けて彼女の元に集まる機会をつくった。だがビリーひとりだけが、皆が当然のようにウソをつき続けることに強いわだかまりを抱いている。

集まる口実にされたのは日本に住むおばあちゃんの孫息子の婚礼だ。冠婚葬祭にまつわる旧来の風習、親族同士の噂話や自慢話、一家の長として見栄を張り采配を振るう祖母。そんな俗事にどっぷりつかった数日を過ごすうちに、ビリーの心に変化が起きたようだ。

ビリーを演じているのは知る人ぞ知るラッパーのオークワフィナだ。アメリカ社会に向けて臆することなく強い主張を発し続ける彼女は、ビリーの心の声を表現するには適役だ。どこで暮らそうとも人々の心の奥底には大事な根っこがあるのだ、と。

もうひとつ興味深いことがある。昨今中国の映画作家が描く家族像が切実な問題を提起しているのに比べ、本作のアメリカ在住の中国人映画監督が描く家族が伝統に抛りすぎなことだ。そこには、ありがちなことだが中国に対する西洋のまなざしが影を落としているとも感じられる。

tamura shizue  
田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977年にファスビンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からハウシャオシエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。

[上映日程] 12/19~1/8 (休映：12/21,30~1/1,4)

◎鑑賞料金：特別興行作品につき、年間パスポート（ゴールド）は利用できません。ゴールド会員の方は、一般¥1,000にてご案内させていただきます。